

英語語法文法学会 20周年記念大会資料

日 時： 2012年10月13日（土）

開催地： 近畿大学東大阪キャンパス

住 所： 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1
<http://www.kindai.ac.jp/access/honbu.html>

順路

- (1) 近鉄大阪線「近鉄長瀬」駅より徒歩約10分.
- (2) 近鉄奈良線「八戸ノ里」駅より徒歩約20分,
あるいは近鉄バス金物団地・久宝寺駅前行10分 東上小坂下車徒歩2分
また八戸ノ里駅前ロータリーよりタクシーも利用可能です.

- 大阪駅からは,
JR 大阪環状線外回りに乗車し約15分で「JR/近鉄鶴橋」駅,
近鉄大阪線に乗り換え約10分で「近鉄長瀬」駅.
- 京都駅からは,
JR 京都線「新快速」に乗車し, 大阪駅でお乗り換えください.

英語語法文法学会
The Society of English Grammar & Usage

September 2012

英語語法文法学会

英語語法文法学会 20 周年記念大会プログラム

年会費：4,000 円 大会参加費：学会会員 500 円／当日会員 2,000 円（予稿集代を含む）

日 時：2012 年 10 月 13 日（土）＜昼食は学内の食堂もご利用いただけます＞

開催地：近畿大学東大阪キャンパス

住所：〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

<http://www.kindai.ac.jp/access/honbu.html>

順路 (1) 近鉄大阪線「近鉄長瀬」駅より徒歩約10分。
(2) 近鉄奈良線「八戸ノ里」駅より徒歩約20分、
あるいは近鉄バス金物団地・久宝寺駅前行10分 東上小坂下車徒歩2分、
また八戸ノ里駅前ロータリーよりタクシーも利用可能です。

- 大阪駅からは、JR大阪環状線外回りに乗車し約15分で「JR/近鉄鶴橋」駅、
近鉄大阪線に乗り換え約10分で「近鉄長瀬」駅。
- 京都駅からは、JR京都線「新快速」に乗車し、大阪駅でお乗り換えください。

開催校委員：吉田幸治・平井大輔

ワークショップ（B館2階講義室201） ●研究発表（B館2階講義室201・204）
総会（B館2階講義室201） ●記念講演（B館2階講義室201）
一般会員休憩室（B館2階講義室101） ●講演講師控え室（B館3階演習室307）
司会者控え室（B館3階演習室308） ●発表者控え室（B館2階講義室202）
書籍展示（B館2階講義室203） ●大会本部・運営委員会室（B館3階演習室309）

受付：10時00分より B館1階ホール

ワークショップ（B館2階 講義室201） 10.30 - 11.55

- 司 会 吉良文孝（日本大学）
1. 「More than と「以上」」 柑本幸子（奈良女子大学大学院）
 2. 「観察データに見る(at least) X(,) if not Y 構文の可能な解釈」
明日誠一（青山学院大学非常勤）
 3. 「他動詞 attribute の意味と"X be attributed Y" 構文」
金子輝美（愛知淑徳大学非常勤）
 4. 「心理形容詞が従える補文標識 that の有無と意味との関連性
—surprised と satisfied に焦点をあてて—」 土屋知洋（防衛大学校）
 5. 「Fail to 不定詞の意味と用法」 田岡育恵（大阪工業大学）

受付：12時30分より B館1階ホール

研究発表 13.00 – 14.45

第1室 (B館2階 講義室201)

司会 田岡育恵 (大阪工業大学)

1. 13.00 – 13.35 「「獲得」を表す come by something の意味・用法の記述」
平沢慎也 (東京大学大学院)
2. 13.35 – 14.10 「進行形の「前段階性」について」
佐藤健児 (日本大学非常勤)
3. 14.10 – 14.45 「For all to see の語法と多義性について」
南 佑亮 (神戸女子大学)

第2室 (B館2階 講義室204)

司会 西田光一 (下関市立大学)

1. 13.00 – 13.35 「動能構文の構文的拡張と誇張解釈」
吉川裕介 (佛教大学非常勤)・五十嵐海理 (龍谷大学)
 2. 13.35 – 14.10 「英語における軽動詞構文, 同族目的語構文にみられる修飾
関係について—have a drink, drink a drink を中心に—」
金澤俊吾 (高知県立大学)
 3. 14.10 – 14.45 「前置詞の補部となる Wh 節の名詞性について」
濱松純司 (専修大学)
- 総

会 (B館2階 講義室201) 15.00 – 15.20

- 開会の辞 会長 内田聖二 (奈良大学)
- 開催校代表挨拶 増田大三 (近畿大学副学長)
- 学会賞選考報告 会長 内田聖二 (奈良大学)
- 事務局報告 事務局長 須賀あゆみ (奈良女子大学)

記念講演 (B館2階 講義室201) 15.35 – 17.45

司会 内田聖二 (奈良大学)

「非人称 it 構文—語法と文法の不可分な全体を構文に見る—」

中右実 (筑波大学名誉教授)

「斜めから見た英語語法文法学会—宛として牛の如きわが半百年の歩みを抜き交ぜ
て—」

大沼雅彦 (大阪市立大学名誉教授)

閉会の辞 吉田幸治 (近畿大学)

懇親会 18.00 – 19.30 会場 Cafeteria November (11月ホール地下1階)

(懇親会費：一般 5,000円 学生 3,000円)

ワークショップ (B館 2階 講義室 201) 10.30 – 11.55

司会 吉良文孝 (日本大学)

More than と「以上」

柑本幸子 (奈良女子大学大学院)

後に数詞を伴う more than (以下[more than + N]) は一般的には「以上」に対応すると思われていることが多い。しかし、実際のところその意味は、more than の後の数詞を含まずそれを超えるものであることから、後の数詞を含む日本語訳「以上」との間に誤差が生じ、特に厳密な境界を示す必要のある文においては、誤解を招く恐れがある。本発表ではまず、辞書、語法書の[more than + N]の記述の問題点を指摘し、その後、実際に[more than + N]の具体例を用いて分析する。分析の方法としては、more than によって厳密な境界を示す必要があるかどうかということ、一般的な日本語訳である「以上」と訳すことが可能かどうかということに焦点を当て、more than の意味を探る。そして最終的に、日本人にとってわかりやすく、また誤解を招くことのない的確な日本語訳を提言することを試みる。

観察データに見る(at least) X(,) if not Y 構文の可能な解釈

明日誠一 (青山学院大学非常勤講師)

pleasant(,) if not charming のような X(,) if not Y 構文は、一般に、2通りの解釈が可能であると理解されている。例えば、(1)は、(2a)と(2b)の2通りにパラフレーズできる。

(1) He is pleasant, if not charming.

(2) a. He is certainly pleasant, and probably/possibly/maybe charming.

b. He is not charming, I agree, but he *is* pleasant. /Even though he is not charming, he is at least pleasant. (岡田 1987:44)

(2a)のように「(...)はYである」が真であると示唆する読みを「(会話の含意の)棚上げ」と呼び、(2b)のように「(...)はYでない」が真であると譲歩する読みを「譲歩」と呼ぶことにする。

X(,) if not Y に関する従来の解釈は、端的に言えば、「Xと言える点は確かだ」が、Yについては、「Yと言える可能性がある」か「Yでないのは事実だ」と考えるかによって「棚上げ」と「譲歩」の読みに分かれる。

本発表では、この構文の問題点を指摘し、その問題について適切な議論を可能にする基盤的研究として、観察的妥当性に焦点を当て、X(,) if not Y 構文の可能な解釈として、新たに7通りの解釈が可能であることを指摘する。

他動詞 attribute の意味と "X be attributed Y" 構文

金子輝美 (愛知淑徳大学非常勤)

attribute が受動文で用いられた例としては、His success is attributed to his teacher. のような表現が一般的であるが、ここではそれと構文と意味を異にする次のような表現を対象とする。

I believe that every grammatical marker is properly attributed some kind of meaning, however tenuous it might be. (Langacker 1991:522)

下線部は「どのような文法標識にも、たとえ微弱であっても、何らかの意味がある」ことを意味し、主語の状態・属性が述べられている。二重目的語構文や授与動詞についての先行研究は多いが、上例のような「attribute 受動構文」そのものに触れた個別研究は、管見によれば、これまで全然見られない。この受動構文の特性について、次の項目を立てて議論を進める。

1. "X be attribute (ascribed) Y" 構文の実例の観察
2. "Y be attributed to X" (能動文を含む) が表す2つの意味
3. attribute (ascribe, impute を含む) と give の意味的共通点
4. "X be ~ed Y" 構文の典型事例と拡張事例
5. 状態を表す受動文の特徴
6. 語法の揺れと確立度にはどのような要因が関わるのか

心理形容詞が従える補文標識 that の有無と意味との関連性 —surprised と satisfied に焦点をあてて—

土屋知洋 (防衛大学校)

本発表は、I'm surprised (that) he did it. のような文にみられる、心理形容詞、特に surprised と satisfied が従える補文標識 that (以後、that) の有無について意味の観点から再検証し、各語の有する意味の違いと that の有無が密接に関係していることを主張することである。Bolinger(1972: 50-55)には心理形容詞と that の有無に関する記述がみられるが、英米の学習辞典や Swan(2005: 584)をはじめとした多くの文献では、口語・一般的(高頻度)な形容詞では that が省略されると説明される。しかし、実際はBNCにおける口語レジスターの量的調査から surprised と satisfied では that のない形は 15 : 1 の割合で大きく頻度が異なる。この頻度の違いは各形容詞の意味の違いに起因すると考えられ、影山(2001: 84)が論じるように前置詞 at と共起する心理形容詞では点的・瞬間的な感情を、with と共起するものは持続的な感情を表すとしている。また八木(1999: 167)が指摘するように、to 不定詞を従える場合、直接的な原因を表し一時的性質を表すと言い、この記述は satisfied が to 不定詞をほとんど従えないという量的調査の結果とも一致する。つまり瞬時・一時的感情を表す surprised は that の無い形式を、回顧・持続的感情を表す satisfied では that を従える傾向にあることを新たに提案できると考える。

Fail to 不定詞の意味と用法

田岡育恵(大阪工業大学)

fail to do は、not do と比べて「予想に反して」の含みを伴うという記述がある (cf. 『ジーニアス英和辞典』(第4版))。しかし、予想に反する状況でいつでも fail to を用いることができるわけではない。

(1) He failed to be quiet in the classroom. (2) ?The child failed to be a girl.

(1)「教室で静かにしなかった」の fail to はいいが、(2)「その子は女の子ではなかった」の fail to はおかしい。女の子だと予想されていたということはあるのに、(2)の fail to がおかしいのは何故か。性別は主語の意志によって実現できる状態ではなく、fail to はあるべき状態になろうとしてなり損ねることを表す表現だからか？しかし、そう考えると、(3)、(4) の、to be angry や to be sexist のように、「そうならろうと望まれる状態」とは思われない状態が fail to で表されている場合もあり、矛盾することになる。

(3) We can also fail to be angry about the right things, ... (BNC:CGE)

(4) ...the modern study of politics can not (*sic*) fail to be sexist. (BNC:CM5)

また、I fail to see / understand という表現は話者の苛立ちを表すと言われる(cf. *LDOCE*⁴)。それは何故なのだろうか。

発表では、以上の点について考察を述べたいと思う。

司会 田岡育恵 (大阪工業大学)

「獲得」を表す come by something の意味・用法の記述

平沢慎也 (東京大学大学院)

『ジーニアス大辞典』では、come by something は「〈金・仕事など〉を(通例努力の結果)得る」の意とされ、「多くは S is hard [easy, difficult] to come by. という文型や (I don't know) how S come by O. のような間接疑問文で用いられる」と述べられているが、この記述は不正確である。まず、アメリカ英語コーパス (COCA) を利用した調査から、to-complement に come by something が入る tough 構文の形容詞が easy の場合には、hard/difficult の場合とは異なり、否定文が大半だということが分かる。つまり獲得の困難さを表すことが多いのである。次に、「努力の結果の獲得」が come by something のポイントだとすると、??The book is so expensive that it is almost impossible for a high school student to **come by**. が不自然である理由が説明できない(発表では、インフォーマント調査に用いた類例をさらに紹介する)。このような事情を踏まえ、発表者は「獲得」を表す come by something の定義・説明として以下を掲げる。

「獲得を表す come by something は、世の中にあまり出回っていないため遭遇することが稀であるようなものを獲得するという意味を表し、典型的にはその獲得の困難さを伝達したり、獲得した人に対する驚きを表明したりする目的で使われる。」

進行形の「前段階性」について

佐藤健児 (日本大学非常勤)

英語の進行形については、ある特定の時点における進行中の動作を表し、さらに個々の動詞のアスペクト特性に応じて、「継続性」「限られた継続性」(=「一時性」)「未完了性」を表すとされるのが定説である (cf. Quirk et al. (1985: 197ff.)、Leech (2004³: 18f.) など)。

- (1) a. The house **is falling** down. (継続性)
(cf. The house **falls** down!)
- b. I **am living** in Wimbledon. (限られた継続性)
(cf. I **live** in Wimbledon.)
- c. The bus **was stopping**. (未完了性)
(cf. The bus **stopped**.) (以上、Leech (2004³: 19f.))

本発表では、英語の進行形には、これらの意味的特徴に加え、「前段階」を保証するとも言えるべき意味機能が備わっていることを指摘する。さらに、このような進行

形に内在する意味機能が、英語未来表現（Be going to / 現在進行形 / 未来進行形）や進行命令文、過去進行形の特用法（Hatcher (1951: 261) の言う springboard phrase との共起）の意味や文法性を説明する上でも、また瞬間的な出来事と進行形との関連を論じる上でも重要な意味論的概念であることを主張する。

For all to seeの語法と多義性について

南 佑亮（神戸女子大学）

本発表は、for all to seeという句の語法と多義構造の記述・説明を試みる。Oxford *Advanced Learners Dictionary*は、この句の意味を①“in a way that is clearly visible”と②“clearly visible”に分けている。①の意味になるのは、この句が目的節であり、描写状況内の行為者の意図が認められる場合である（例：He held the weapon up for all to see, and his eyes met those of Artur Bader.）。一方②の意味は、行為者の意図の関与も認められない場合に対応する（例：In memory, a German tumbled into London and died. His watch is there for all to see in the Imperial Museum.）。興味深いのは、②の意味に対応する形式に限り、単純な状況描写ではなく、聞き手に対して自分の主張を納得させるという話者の言語行為と密接に結びつけられている事例が見られることである（例：We also know that he had direct links, was paid by, and directed by individuals in the Iranian government. Now, those facts are there for all to see.）。そこで本発表では、この用法が②の意味に対応する形式に限られる原因を認知的な観点から明らかにしたうえで、construction(s)としてのfor all to see句の適切な記述方法についても考察していく。

司会 西田光一 (下関市立大学)

動能構文の構文的拡張と誇張解釈

吉川裕介 (佛教大学非常勤) ・ 五十嵐海理 (龍谷大学)

本発表では、(1)に観察されるatを含む動詞イディオムとthe hellなどの強意句が混交 (blending)する例を取り上げる。

(1) a. Yes! I laugh at the fact they are in cages and I am free. It's so funny to see their miserable faces while I *laugh the hell at* them!

b. I'm sure we can all remember clips of players trying to *beat the hell at out of* each other. (Google)

(1)が示すように、誇張を表す表現 the hellが動詞とat句の間には副詞が入り込む例があり、(1a)では自動詞 laughとatとの間にthe hellが挿入され、(1b)では Hoeksema and Napoli (2008)が言うところの B-constructionと動能構文が混交している。

本発表では、どのような条件下で 2つの構文が混交するのかについて幾つかの統語テストや大規模コーパス、実例などを基に実証的に明らかにする。具体的には、動詞イディオムと誇張表現が単に合成的に融合しているのではなく、一方の構文に指定される動詞の選択制限を書き換えることで類推的に拡張する点を語彙・構文的観点(cf. Iwata 2008)から論じる。

英語における軽動詞構文、同族目的語構文にみられる修飾関係について

— have a drink, drink a drink を中心に —

金澤俊吾 (高知県立大学)

英語における軽動詞構文、同族目的語構文 (以下、CO 構文) は、いずれも一定の統語連鎖[NP-V-a/an-Adj-N]を用いて、動作に関する付随的な情報を表すことができる。このことから、先行研究では、これら 2つの構文の類似性が指摘されてきた(Jespersen (1942), Quirk et al. (1985), Höche (2009))。この類似性は、当該構文にそれぞれ生起する形容詞の分布にもみられる。quick は、軽動詞 have を伴う軽動詞構文(以下、Have a 構文(Dixon (2005)))、CO 構文にそれぞれ生起し、「お酒を速く飲む場面」を表すことができる(He'd had a quick drink in the Station Buffet./Cheskis drank a quick drink.)。しかし、sad は、Have a 構文に生起できるのに対し、CO 構文には生起できない(He had a sad drink by himself./*We drank a sad drink.)。これら 2つの構文の類似性が指摘されていながら、なぜ、当該構文にそれぞれ生起する形容詞の分布に違いがみられるのであろうか。

本発表では、Have a 構文、CO 構文は、それぞれ、一定の統語連鎖

[NP-V-a/an-Adj-N]を具現化した構文パターンであると主張する。そして、これら 2 つの構文パターンの違いは、場面描写の程度、すなわち、詳述性(specificity)の違いにあると提案する。さらに、CO 構文より詳述性の高い構文パターンが存在することを明らかにする(He drank a hearty gulp of his water./Nicola drank a last sip of her tea.)。その上で、Have a 構文、CO 構文に生起する形容詞の分布の違いは、各構文パターンの詳述性の違いに起因することを示す。

前置詞の補部となる Wh 節の名詞性について

濱松純司 (専修大学)

本発表では、(1)の様に前置詞が補部として Wh 節を選択する例を取り上げる。

- (1) a. Look at who spends the money
b. his explanation of who manipulated the figure

まず、(1)が自由関係詞節を含むと仮定する。Bresnan and Grimshaw (1978)等に従い、自由関係詞節が名詞句であるとすれば、本構文は前置詞及び名詞句から構成されることになる。

一方で、複数の統語的テストを適用すると、本構文は間接疑問文の生起をも許す事実が判明する。前置詞が間接疑問文を補部として選択するとすれば、(2)の様に前置詞は通常、節を補部として取らないという事実と矛盾することになる。

- (2) *his explanation of [that the child was injured]

本発表では、この問題を句構造の精緻化によって解決する立場を紹介した後、Ross (1973)の、節の種類によって、名詞性 (nouniness) の程度が異なるとする主張を援用することにより、自然に説明されることを示す。

記念講演 (B 館 2 階 講義室 201) 15.35 – 17.45

司会 内田聖二 (奈良大学)

非人称 it 構文

—語法と文法の不可分な全体を構文に見る—

中右 実 (筑波大学名誉教授)

定代名詞 *it* の非人称用法は、語法的にも文法的にも特異な存在で、知的興味をそそる生きた素材に満ち溢れている。ここで「非人称の *it* (impersonal *it*)」とは、典型的には、伝統文法でいう「状況の *it* (situation *it*)」や「予備の *it* (preparatory *it*)」など、多様な名称で区分される部類を指している。それが生成文法では、「虚辞の *it* (expletive *it*)」などと呼ばれ、単なる文法的埋め草として扱われる。しかし特筆すべきことに、生成文法の隆盛期の渦中にあっても、非人称 *it* の有意味性と指示性の本質を広範な実証によって解き明かした記念碑的論考が Bolinger (1977)にある。

本講演では、ボリンジャーの基本精神と多岐にわたる知見を引き継ぎ、その延長線上で非人称 *it* の存在理由を機能論的かつ認知論的に突き詰める努力を試みたい。非人称 *it* は典型的に主語位置に生じる、というのは間違いはないが、それだけではその真の姿かたちを捉えたとはいえない。非人称 *it* が実際に生起するより大きなコンテキスト、すなわち、文法的環境だけでなく談話的環境をもつぶさに観察してみると、意外にも多様な、慣習的に定着した構文スキーマが浮かび上がってくる。いったん慣習的な構文スキーマが見いだされれば、それと抱き合わせになった概念構造を見極め、ひいては、そこに織り込まれた英語話者の無意識的な思考様式をも推論する自然な道筋が開かれる。かくして非人称 *it* に特有な構文スキーマこそが非人称 *it* の語法と文法の不可分な統一体として捉えられる。

斜めから見た英語語法文法学会

—宛として牛の如きわが半百年の歩みを扱き交せて—

大沼雅彦 (大阪市立大学名誉教授)

前会長の早とちりに基因するこの講演。上のようなタイトルで、頭に浮ぶことどもを述べてみたいと思う。